

令和6年度 第2回 住吉区地域福祉専門会議 会議要旨

1 日時 令和6年10月31日（木） 午後6時から午後8時

2 場所 住吉区役所 4階 第4・5会議室

3 出席者

(委員)

稲田委員、尾畑委員、西田委員、八牟禮委員、藤居委員、藤本委員、松岡委員、
宮川委員、山下委員

小野アドバイザー

(区役所他)

区長、副区長、関係課長、課長代理、担当係長

住吉区社会福祉協議会 事務局長、地域支援担当係長

4 議題

報告

(1) 「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」の区民等への周知について

(2) 住吉区地域見守り支援システム進捗状況について

(3) 地域座談会の開催状況について

(4) 実務者代表者会議の開催状況について

議事

- 「住吉区地域福祉ビジョン Ver. 3.0」において重点的に取り組むべきこと」について、
第1回のグループワークで出されたふたつのご意見を進めるために
「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて

5 議事要旨等

【報告】

○実務者代表者会議の開催状況について

- ・分野ごとにシステム等が進んでいるところを、横串を刺すという形で1回コントロールを取って、区政会議等へ上げていくとともに、システム図には双方向の矢印があつて、地域での座談会とリンクするような形で、分野間を超えて地域にフィードバックできるような機会が持てたら。
- ・システム図を分野別にみると、児童関係は「地域」に結構あるが、「地域と専門職」のところにはあまりない。障がい関係は「地域」にあまりない。色分けしても面白いと思う。多分、児童関係は「地域と専門職」のところ弱く、障がい関係は「地域」のところ弱いのではないか。
- ・システム図の相互連携の矢印をどうしていくかが地域福祉推進のポイントだと思う。

会議の目的が専門職や関係機関の連携の円滑化では、専門職という縦割り、地域と専門職みたいな縦割りの図になりかねない。専門職が意識的に地域とつながり、小地域の中でそれぞれの分野が連携を取りながら、住民と一緒にになって福祉課題を解決していくということの枠組みが必要だと思う。

【議事】

「担い手不足の解消」と「ゆるやかなつながりづくり」の効果的な取組みについて

主な委員意見

- ・地域の住民の中から地域福祉に関心を持っていただける方が、個人、法人問わず必ずおられると思うので、どうやって表に出てきてもらうのかをまず考えたい。地域が関心を持ってもらえるような行事を用意というか、行動を取ったらいいいのでは。
- ・地域座談会に、地域に関心を持っていただきたい人をメンバーに入ってもらおう。
- ・「担い手不足」というところで、「子ども見守り隊」の高齢化が進んでいて、担い手が減っている。一方で「こども 110 番の家」という取組みがあるが、形骸化しているというか、あまり機能していないのではないか。メンバーを見直し、新たに組織化をして担い手としてお願いしてはどうか。
- ・子どもたちが地域に根差す目的を担っていくというところで、中学生を土曜授業で総合防災訓練に参加してもらおうなど、中学生が地域に出て活動する場を作っていくとどうか。
- ・子どもたちが子ども食堂をやるという「子どもが食堂」。地域の方も来て、子どもが接待をして、いろんな方が集まれるような場をつくる。
- ・子ども同士のつながりが学校だけになっていないか。地域でもつながりができるような場をつくりたい。
- ・各地域でいろんな地域活動をお願いするのに、いきなり役員やってといわれると結構難しい。小さなことからお願いして、徐々に巻き込んでいく。
- ・住吉区で子ども食堂の数が増えている。子ども食堂がゆるやかなつながりを生んでいるのであれば、最近始めた人に聞いてみてはどうか。実際にやっている担い手や参加者から話を聞いて、自分たちの地域で実現できるのであればやっていく。
- ・小学生で子ども食堂とか子どもの居場所に来ていた子が、高校生、大学生、社会人になってボランティアとして戻ってきてくれる。ボランティアにそれくらいだったらできるというハードルの低いものをお願いしていくことが大事。
- ・地域喫茶を手伝ってくれている人は、最初は「何もできないけど」と言われるが、「私できないけど、この辺できる人いない」みたいな声かけや一本釣りがすごく大事。一本釣りするにはつながることが大事。「あそこに誰々さん、できる人居てるよ」とキャッチできる。
- ・担う人も支援される人も選択肢がたくさんあること、地域の中に選択肢がたくさんあることが大事。
- ・地域の活動者と、いわゆる専門職とつなげるというところは1つの大きなテーマ。

地域見守り支援システムの要援護者に対し、災害時、同じ対象者に地域の見守りによる安否確認、福祉専門職は専門職として安否確認をどうするかというところを悩んでいる。専門職と地域側とで話ができるようなきっかけも、一つの対策というか活動のきっかけになると思う。

- ・若者の参画が気軽にできるようなものが何かできないか。中学校の施設の活用がキーポイント。参画をするだけでなく企画自体を中学生ができるようなものにする事で将来成長してから地域に戻って活動してくれるのではないか。
- ・つながりは実はある。でも、継続しない、持続しない。地域活動のつながりとか取り組みが切れてしまう要因は、活動者が不安になる。そんなときに専門職が寄り添ってもらえれば持続するのではないか。
- ・個人情報の壁。地域で見守っていて気になる人の情報を役所に投げてフィードバックがない。相互関係が築けないがゆえに活動のモチベーションが下がっていたりするところを、専門職がきちっと介在してもらおうとすごくありがたい。
- ・地域の中で様々なコミュニティがあって、コミュニティが潰れていっている。それは担い手不足というより、孤立してしまっている。コミュニティ同士が協働し、そして変容していくみたいな仕掛け、組織を固定化させない。
- ・コミュニティが出会い一堂に集まる「お祭り」を大学生がプロジェクトでやるような仕掛けをしていく。学生が社会課題を解決する1つのアプローチとして、区政が用意をするというようなフィールドをつくる。

6 令和6年度の開催日程について（予定）

第3回 令和7年 2月 6日（木） 午後6時から